

隠さない企業風土づくり① 臨界事故の隠蔽と再発防止対策

2006年（平成18）, 経済産業省原子力安全・保安院からの電力各社に対する発電設備に関する総点検にかかる指示に基づき, 水力・火力・原子力発電設備全般にわたる点検を実施しました。この中で, 1999年（平成11）6月の志賀原子力発電所1号機の定期検査中に, 原子炉において臨界*¹事故を起こしたことが判明しました。

1999年（平成11）6月18日未明, 定期検査中の志賀原子力発電所1号機で試験準備のため制御棒駆動機構*²の弁を操作していたところ, 想定外に隣接する制御棒3本が引き抜け, 午前2時17分に原子炉が臨界になりました。自動停止信号が発生しましたが, 制御棒が直ちに挿入されず, 弁操作により15分後に全挿入され, 臨界状態が収束しました。

事故後, 所長以下の関係者が発電所へ集まって対応を協議し, 約2か月後に控えていた2号機着工などへの影響を考え, 最終的に所長が外部へ報告しないことを決断しました。また, 事故に関するデータを改ざんし, 必要な記録を残していませんでした。

北陸電力は, 2007年（平成19）3月15日にこの事実を原子力安全・保安院および自治体に報告するとともに公表しました。翌日には1号機を停止し総点検に入るとともに志賀1号機事故調査対策委員会（委員長：社長）を設置して事実関係および根本原因の究明, 抜本的な再発防止策の策定に取り組みました。

組織や企業風土にも踏み込んだ根本原因分析を行い, 2007年（平成19）4月に「隠さない企業風土づくり」と「安全文化の構築」を柱とした再発防止対策を構築し, 現在もその取り組みは継続しています。

*1 一定量以上の核分裂性物質がある条件下で集まると, 生まれた中性子が核分裂性物質に当たり新たな中性子を作り出し, 核分裂反応が持続する状態。

*2 〈制御棒〉原子炉の出力を制御するための中性子吸収材を含有した棒状の装置。

〈制御棒駆動機構〉水圧により制御棒を原子炉に挿入, 引き抜くための装置。

